

北海道教育大学函館校地域プロジェクトの学生たちが、2種類の交通モニターを企画。学生は自らチラシを配布したり、直接呼びかけを行い、参加者を募りました。

公共交通モニターツアー

高校進学を機に公共交通を利用して通学する学生が多い北斗市で、小学生のうちから公共交通に触れる機会をつくるため考案しました。



いざ出発!

▲出発前路線図や時刻表の読み方、切符購入のレクチャーを受け、いさりび鉄道に乗車。

▶五稜郭駅からはバスの乗車に挑戦!



新函館北斗駅では、ここまで利用した公共交通について気付いたことなどを大学生と意見交換。



函館駅から再びいさりび鉄道に乗車。切符を買うのも任せて!



1人でもう大丈夫!

START

清川口駅

せせらぎ温泉

道南いさりび鉄道

巡回ワゴン

五稜郭駅

函館バス

折り返し

長橋バス停

新函館北斗駅

JR北海道

巡回ワゴン

函館駅

道南いさりび鉄道

清川口駅

せせらぎ温泉

GOAL

巡回ワゴンモニターツアー

「知っているけど乗ったことはない」「乗り方が分からない」「乗ってみたいけど最初は不安」という方に巡回ワゴンを知ってもらうため考案しました。



出発前に、自己紹介や巡回ワゴンの説明を受け、和やかな雰囲気巡回ワゴンに乗車。



冬道なので、乗り降りする時には、特に注意が必要。



巡回ワゴンの車内。スペースがあるので、移動中も快適です。



最後はせせらぎ温泉で、乗車した率直な感想を出し合いました。参加者からは「ワゴンの存在を知らなかったので、車の免許を返納したら使いたい」という感想がありました。

何も無い、それってホント?

～若者がまちに関わる意義～



この取組みは、北斗市地域公共交通計画に基づく、北斗市地域公共交通活性化協議会の事業です。

企画課企画係 [内線238]

今、北斗市では、学生たちがまちづくりの新しい担い手として動き始めています。彼らは市民の方に地域に対する愛着を持ってもらい、このまちに長く住んでもらおうと、まちの課題解決に向けた取り組みの一つとして、地域の公共交通や巡回ワゴンを活用したモニターツアーを企画しました。彼らの柔軟な発想と行動力で、まちに新しい風を吹き込もうとしています。先のない不確実な時代において、挑戦することには大きな勇気が求められます。そのため、学生たちが学ぶ実践的な課題解決能力は、これからの社会で極めて重要なスキルとなるでしょう。求められるのは、失敗を恐れて何も行動しないのではなく、失敗を受け入れ、それを後押ししてくれる地域の存在です。そうした地域では、若者たちが関わりを求め、自然と集まってくると思えます。特集では、大学生が関わるまちづくりを通して、地域と大学生の共同プロジェクトの効果についてお伝えします。

北海道教育大学函館校 地域プロジェクト

地域プロジェクトは、地域で活躍する上で必要な実践的課題解決能力を養うために、全学生必修として開設されている地域課題解決型かつ企画構想実施型の学習科目です。

プロジェクトの総数は、なんと40以上! これほど多くのプロジェクトを実施する大学は、全国でも類を見ません。

数学を楽しむワークショップや子どもを対象とした法教育など、多彩なプロジェクトがあります。



大学生の生の声を聞いてみた

北海道教育大学函館校地域プロジェクトのメンバー。出身地がそれぞれ異なり、大学で初めて道南に来たメンバーも多いです。彼らには、北斗市はどのように映っているのでしょうか。

我々が日常生活の中で当たり前だと思っていたことも、彼らの声を聞くと、それが当たり前じゃないことに気付くかもしれません。

わかもの・よそものから見える北斗市、そして彼らの将来に対する率直な想いを伺ってみました。

細川 颯汰さん(2年)〈出身：せたな町〉

北斗市ってずーしーほっきーのイメージはあるものの、強く惹かれるポイントって見つけにくいですね。それよりは、祭りだとか、まちに残し続けたいものって必ずあるはずなので、それを探すことの方が大切だと思っています。

地元の人をよく「このまちには何も無い」と言いますが、それは本当にもったいない。若者が興味を持つものは東京にあるようなものが多いかもしれませんが、僕らが大人になるにつれて「これがあるからいいまちだね」と感じるモノが大切だと思います。それらが残れば、まちも残る。若い世代にその想いが伝われば、地元に残る若者も増えるかもしれない。

まちの特徴を受け継ぎ、残す努力と、その意義を伝え続けることを見失わなければ、まちにとって良い結果をもたらすと思っています。



せたな

山本 歩実さん(2年)〈出身：北斗市〉

小学2年生から吹奏楽を続けています。吹奏楽って合奏の時は綺麗な音色ですが、練習中は結構うるさいんですよ。しかし近隣住民のみなさんからは、学校に対して苦情が一切なく(実際はあったかもしれませんが)、むしろ応援の声が多かったことをありがたいと感じています。吹奏楽を思いっきりできるこの環境は当たり前ではなく、地域の温かさがあるからこそです。このような地域の人たちの温かさや理解力が、北斗市の魅力だと感じています。一方、課題としては情報発信力としてSNSなどを活用した広報がもっと必要だと思いますね。

将来は地元に残りたいです。これまでの感謝の恩返しとして、地域に貢献したいと考えています。



長崎 希生さん(2年)〈出身：秋田県北秋田市〉

北斗市と秋田は、高齢者が増え、交通手段や免許証返納問題、そして若者の流出といった課題が似ていると思いました。高齢者向けの支援は多く試みられていますが、それを支える若者が不足しているのが現状です。まちづくりに興味を持つ若者が実は全国には沢山いるので、彼らを地域に呼び込むことで、若者も福祉に興味を持ち、地域全体の活性化にもつながるのではないかと考えています。

若者は地域活動に興味がないと思われがちですが、実際は違います。何もしないまましていると、何も変わらないと危機感を抱いています。地域活動に関わることで、将来の自分の成長や可能性につながっていけばいいなと思いますね。



秋田

できる理由より できる方策を考える

地域プロジェクト 北海道教育大学函館校

齋藤 征人 教授



ホワイトボードいっぱい書かれた学生たちのアイデア。1枚だけでは書き足りません。

若者に触発される大人たち

若者が地域に関わる意義。それは、新しい視点やアイデアが地域社会に取り入れられることで地域の活性化が期待できることや、現場での課題解決に関わることを通じた若者自身の成長や地域への愛着形成にもつながるなど、相互にとって利益になると考えられることです。日頃、地域社会の現場で学ぶ授業を実践していると、大人だ

課題をチャンスに
学生が主体的に動く

けで話し合うよりも学生を交えた話し合いの方が前向きな議論になることが多いと感じます。また真剣に地域社会に向き合う学生の姿勢・態度によって、地域の大人たちの地域課題に向き合うモチベーションが高まるなど、学生たちに関わった大人たちの側の変化にも驚かされています。



北斗市の魅力って何だろう？

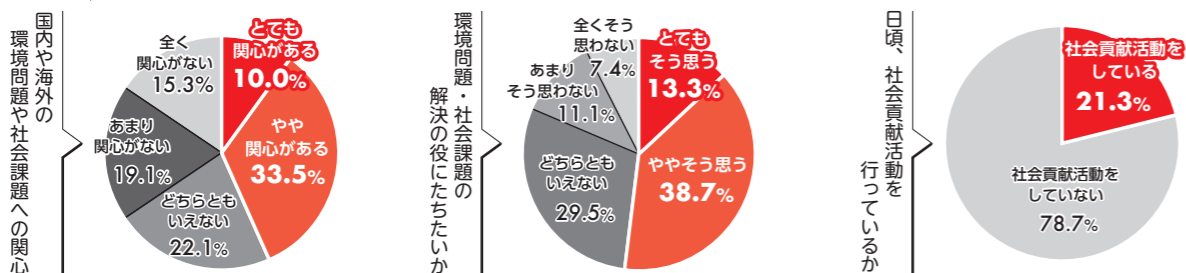
今後学生たちは、ツアー参加者からいただいた声をもとに、学生の視点から考える、交通機関やモニターツアーの改善案を提言していきます。

若者から託された大人たちへのバトン

若者たちを通じて見えてくる北斗市の課題は、場合によっては大人たちが見逃しがちなものや目を背けたくなるものもありますが、できない理由より、できる方策を考えたいものだと思います。

若者たちから託された大人たちへのバトン。私たち大人は、それをどのように受け止め、色々な施策や暮らしに活かしていくのか、今度は私たち大人側が問われています。

若者は無関心ではない！ グラフで見る若者の社会課題などへの関心と活動参加率



回答者：国内の中学生300人、高校生300人、大学生400人 出典：「2022 若者意識調査 - サステナビリティ、金融経済教育、キャリア等に関する意識 - (日本総研)」